

### ＜高齢者祝福礼拝説教＞

\*老いるとはどういうことか。

1. 様々な喪失を経験すること。価値があると思っていたことが無くなること。健康・体力・気力。家族・友人。地位・役割・財産。居場所等々。

「すべてのことが、神から発し、神によって成り、神に至るからです。」  
(ローマ11 : 36) 肉体、能力のすべてが神から与えられたものであるから、最後は神にお返しするのであり、たとえ無くなっても、与えられて用いて来た賜物に感謝をしたい。

2. その結果、弱さを思い知らされること。目標や目的を持って何かを達成しようとすることができなくなる。「私の恵みはあなたに十分である。というのは、私の力は、弱さのうちに完全に現れるからである。」  
(Ⅱコリント 12 : 9) 弱さを嘆かず、弱いところにこそ主イエスが現れてくださることを思って弱さを受け入れることである。

3. 死の不安や恐れが段々強くなる。「わたしは、よみがえりです。いのちです。私を信じる者は、死んでも生きるのです。」(ヨハネ11 : 25) 人間には生きたいという意欲が強く、なかなか死を受け入れることができない。しかし、死の向こうにある天国に行けるという確信があれば死は怖いものではなくなる。老いから来る消極的な考えを積極的に、肯定的な考えに転換したい。

\*肯定的に考えることができる根拠は以下にある。

「神を愛する人々、すなわち、神のご計画に従って召された人々のためには、神がすべてのことを働かせて益としてくださることを、私たちは知っています。」(ローマ8 : 28) 私たち人間にとって嬉しいことや喜ばしいことも、また、悲しいことや苦しいこともすべて神が働かせておられるのである。従って、「益」は「神の益」である。神がみこころがかなうように様々なことを私たちに経験させてくださるのである。神の益(=善)が人間の益、自分の益であることを悟った時、私たちの人生は本当に豊かなものになる。だから、神を知らない人、神を信じていない人々には、すべてのことが益になることはあり得ないし、そのようには考えられない。

「益」としてくださる対象は「神を愛する人々」である。